

備中とと道・駅からトレイル プチガイド ②矢掛・小田→美星・三山 (13km 4:30)

瀬戸内沿岸の平地を背に角(つの)坂の急坂を登り
再発見された幻の県道を辿り
吉備高原の高みへと足を踏み入れる挑戦の道

コースタイム (参考値)

井原線小田駅下り着 10:13
or 11:11

小田辻橋跡発

→①日置谷公会堂 (1:00)

→②幻の県道経由百万遍念佛
(1:40)

→③美星三山八幡 (1:30)

→④美星産直プラザ (0:20)
計 4時間30分

井原線矢掛駅向けバス (2021.2付け)
土日祝日 16:24発 16:55着
平日 16:14発 16:45着
井原線上り17:14発



小田の江戸期の道標



神戸山・とと道はこの山裾を北上した



宇内角坂の登り口



毛野の二股道標





①②日置谷公会堂→毛野百万念佛塔



③④百万遍→美星・三山

②矢掛・小田→美星・三山 (13km4:30)

備中とと道トレイルガイドブックより抜粋。実際
に歩く折りには同書をご参照下さい。説明表題のNO
はガイドブック地図中のNOです

2-2 小田東町江戸期の道標（標高 6m）



迷路のような小田市街を抜け出すと正面に水田が広がる。そのきわにポツンと田んぼに埋もれるように道標が顔を出している。「みぎハまつ山道なりハ」と刻字され遙か先に成羽があることが初めて確認できる貴重な道標だ。延享25(1745)とされている。道路改修のため少し移動しているとのことだが、道の反対側に有ったと想像される。

2-15 川面四国43番霊場へ



宇内の北外れの車道をしばらく進むと、正面の、藪で覆われた斜面の中央に、そこだけ藪が刈り払われた山道が現れる。これこそ正にかつてのとと道であり、関係者の草刈作業の賜物だ。最初の登りは急だが、ほどなく森の中のゆるやかな登りになり、右手に第43番霊場が現れる。祠は大木の根で包まれており年代を感じさせる。道なりに登り、角坂池の上を辿って再び県道に合流する。

2-16 まぼろしの県道登り口



宇内一帯では「まぼろしの県道」という言葉をよく耳にする。昭和の初め、宇内から美星に至る道として旧道の県道への昇格が決まった。ところが戦争のため工事は沙汰止みとなり、戦後になると、この道では車が通れないことから県道は別のルートに変更された。このためこの道はまぼろしのままに終わり、まぼろしの県道と呼ばれる様になったという。では実際にはこの旧道はどこを通っていたかとなるとまぼろしだっただけに諸説紛々、2017年2月6日によく特定された。ここからいよいよ55年ぶりに再開通された道へ足を踏み入れることになる。県道をわたり、ゆるやかな登り坂を行くとガードレールの付いた登り口が現れる。

2-18 毛野の道標（標高300m）



刈り払われた森の中の急坂を登りきると吉備高原特有の高原状の台地の一画に出る。右にも左にも開拓畠が広がる。そこを北へ向かうと二股になる。下ではなく、上方のやや細い草付き道を辿る。笹薮が刈り払われた先に四角い道標が見える。これがまぼろしの県道の位置を特定するきっかけとなった毛野の二股道標だ。

道標の西北の面には「大正15年6月」、そして東北の面には「右 小田矢掛 為亡牛 左 舊道」と刻字されている。道標の位置に立って南を見れば、上下に道があり、そこは正に二股。右下を行けばやや広い道。左上は登ってきた山中へとつながる藪に囲まれた道。道標の刻字はそれを舊道=旧道と明示している。

つまり左の道こそがまぼろしの県道であり、とと道なのだ。

2-23 布東の道標



布東の道標から見た昭和40年代と現代の風景。
下の黄色丸が往時の中継所。今は存在しない。

ここから北に見える集落の中段右端の家（○印）とその隣の間がぽっかりと空いている。かつてそこに魚荷の中継所が有ったことである。

2-26 三山八幡神社広場の牛供養碑（金浦から27km 標高328m）



廣場の北側の道路沿いに牛供養碑が2基並んでいる。右手の碑には「右 井原 左 矢掛小田 大正5年」、もう一方には「右 おのミチ 左 かさおか 明治6年」と刻字されている。笠岡金浦から27km、未だとと道全行程の半分ではあるものの、道標や様々な情報から吹屋への道は絞られ、魚荷を担いだかつての魚仲仕同様、さあ行くぞ！とこれからの道程に気持が高まる地点でもある。

牛供養碑の先で道は上下2段になって続いている上の段は本来の道、下の段は田んぼの圃場整備の折りに農耕用の機材が田に入りやすい様に設置された道である。2つの道が合流した先のカーブを回ったT字路の北側の草陰に紡錘形のまろやかな道標がある。「右 吹谷 三山 成羽」と、遙かに遠い、広い世界を俯瞰した目的地が刻字されている。

「吹谷」（吹屋）と「谷」の字を使った刻字が見られる。「笠岡」の名と揃って刻字されているのはこの道標だけである。